

令和 4 年 6 月 18 日現在

機関番号：32677

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K16772

研究課題名（和文）翻訳と創作の創造的連関 昭和期の世界文学の受容と概念形成

研究課題名（英文）The Creative Linkage between Translation and Creation: Reception and Conceptual Formation of World Literature in the Showa Period

研究代表者

戸塚 学 (Totsuka, Manabu)

武蔵大学・人文学部・准教授

研究者番号：70633014

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：「堀辰雄「聖家族」論」で、堀の翻訳と文体生成の関連を明らかにした。この方向で横光利一の翻訳との関わりを比較した「影響と翻訳の間」や「小林秀雄の翻訳」を発表。近日「菜穂子」に関する論文を発表予定。堀にかかわる書物についての分析を行った「堀辰雄をめぐる本たち ～」を発表した。世界文学概念の形成では「『文章読本』から『四季』へ」や「中村真一郎における王朝の発見」、『1946文学的考察』における「世界文学」のプログラム、編著『世界文学アンソロジー』を公表した。書き込み調査では「堀辰雄旧蔵洋書の調査（九）～（十五）」を発表した。世界文学概念の形成の考察過程で「女たちのモダニティ」七本を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、堀辰雄の創作行為を翻訳行為との連関の中で捉えることが可能になったと考えられる。また、この時期の堀の創作が同時代における読書行為の中でどのように立ち上がってきたのかが見えるようになってきた。こうした堀の翻訳と創造・読書行為との関連を示す一例として、ブルースト関連書物との関係が明らかにされ、公開された。蔵書調査については今後発表予定の論考も含めて、近代作家の旧蔵書をどのように研究に活用するかについての提案となり、資料ともども今後の研究に資することと考えられる。また、モダニズム研究の中で手薄になっている、女性表現との関係も明らかにされた。

研究成果の概要（英文）：In "Tatsuo Hori's 'Holy Family' " I clarified the relationship between Hori's translations and stylistic generation. In this direction, I published "Between Influence and Translation" and "Kobayashi Hideo's Translation," in which I compared the relationship between his translation and that of Yokomitsu Riichi. A paper on "Nahoko" will be published soon. I presented "Books on Tatsuo Hori (4)-(6)," which analyzed books related to Hori. In the formation of the concept of world literature, I published "From 'Text Readers' to 'Four Seasons'", "The Discovery of Dynasty in Nakamura Shinichiro", "The Program of 'World Literature' in '1946 Literary Study'", and the edited volume "World Literature An Anthology" was published. In the written survey, I published "Survey of Western Books in the Former Collection of Hori Tatsuo (9)-(15)". In the process of examining the formation of the concept of world literature, I published seven "Modernity of Women."

研究分野：日本近代文学

キーワード：堀辰雄 翻訳 世界文学 中村真一郎 福永武彦 モダニズム 女性表現 旧蔵書

1. 研究開始当初の背景

日本の近代文学は明治期以来、翻訳文学の影響下に自己形成を行ってきた。その中で国民文学を超えた理想的・普遍的な「世界文学」という概念が特に昭和前期に形成されていった。その背景として新潮社版『世界文学全集』(昭2~7)に結実する世界文学の翻訳テキストの整備がある。これと並行して、「詩と詩論」編集者の春山行夫の『現代世界文学概観』(新潮文庫、昭16)、茅野蕭々の「世界文学論」(『岩波講座世界文学』岩波書店、昭8)などにより、ゲーテ由来の普遍的な「世界文学」の概念が紹介された。こうした「世界文学」テキスト・概念の確立期に主体形成を果たしたのが、堀辰雄や中村真一郎ら、西洋風の本格小説を志した作家達であった。彼らは翻訳と創作を並行して新しい日本語の表現を開拓すると同時に、自らの文学を「世界文学」化しようとした作家達だった。この時期の作家の翻訳文学の受容や自らの翻訳行為と「世界文学」概念の形成には密接な関係があるはずである。

こうした昭和期の作家の翻訳と創作の連関については、既に井上健が『文豪の翻訳力』(武田ランダムハウスジャパン、平成23年)で論じている。また沼野充義の『世界は文学でできている』(光文社、平成24年)をはじめとする一連の仕事や、河野至恩『世界の読者に伝えるということ』(講談社現代新書、平成26年)など、世界文学という概念に注目した論考が出てきている。だが、昭和前期の作家の翻訳に視点を置き、世界文学概念の形成・発展過程との連関を明らかにした研究はいまだない。

申請者はこれまで、堀辰雄(1904年(明治37年)-1953年(昭和28年))の文学に注目して研究を進めてきた。昭和初年代~十年代に活躍した堀は、自身の翻訳行為を媒介に、同時代の世界文学から影響を汲み取ってきた。申請者は堀辰雄の翻訳と創作との連関を継続的に研究し、それらの成果を平成27年1月に博士論文『堀辰雄研究 翻訳から創作へ』(東京大学人文社会系研究科)としてまとめた。その中に収めた論考により、堀辰雄が西洋文学・日本古典を翻訳し、自作の中に原典の言葉を翻訳・引用して鏤める「作品内翻訳」を通し、新しい小説の言葉を創造してきたことを明らかにしてきた。また、一連の「堀辰雄旧蔵洋書の調査」により、堀辰雄の旧蔵洋書の書き込み箇所を明らかにし、堀の翻訳行為と創作行為との連関の痕跡を明らかにし継続的に公表してきた。

ただし従来の申請者の研究は、堀辰雄の翻訳と創作に焦点を絞り、それが同時代の文壇にどのような広がりを与えたのかを論じてこなかった。そこで、これまでの翻訳と創作の連関の研究を継続するとともに、「世界文学」概念の形成過程に視野を広げていく必要があると考えるに至った。具体的には、堀の営為を引き継いで自らも翻訳・創作を並行して行った中村真一郎の仕事を検証する。また「世界文学」概念の拡大を検証するために、彼らが翻訳を通して世界文学をどのように受容していたのか、同時代の世界文学をめぐる書物のネットワークを解き明かす必要もある。

2. 研究の目的

〔 〕中村真一郎・山室静らによる「世界文学」概念の受容と作品化の分析

世界文学という概念が昭和作家の小説・評論に影響を与えた例として中村真一郎に注目する。まず同時代の雑誌・単行本における緒言説を分析した上で、中村のネルヴァル翻訳、世界文学関係の評論、特に山室静の世界文学論の受容のありようを明らかにする。その上で、中村の評論や小説に「世界文学」概念が影響を与えていることを明らかにしていく。具体的には、中村の王朝文学論『王朝の文学』や象徴主義をはじめとする世界文学関係の評論、ゲーテの世界文学概念に触れた現代小説『雲のゆき来』を分析し、「世界文学」概念が戦前から戦後にかけてどのように受容されたのかを明らかにしていく。

〔 〕堀辰雄の旧蔵洋書の調査継続と作品との関連の研究

申請者はこれまで堀辰雄のアポリネール・ラディゲ・コクトー関連旧蔵洋書の書き込み調査を行い、堀の翻訳行為と創作との連関の痕跡を明らかにしてきた。だがまだプルースト、ジッド、リルケ関係の蔵書における膨大な書き込みの調査が進んでいない。これらの調査を継続して雑誌発表することで、昭和作家における翻訳行為と創作行為との連関の痕跡を一次資料として公開し、今後の研究者の便宜をはかることを見込んでいる。

〔 〕堀辰雄の翻訳と創作との関連の研究

博士論文を発展させ、堀の翻訳と創作の関連を研究する。具体的には堀辰雄と大正期の詩人堀口大学の翻訳の比較、堀辰雄のジッド翻訳と長篇小説『菜穂子』との関連を分析し、昭和作家の翻訳と創作との有機的連関を明らかにしていく。

〔 〕堀辰雄をめぐる書物のネットワークの研究

堀辰雄と同時代に作家達がどのように世界文学を受容したのかを、当時共有された書物や読解の枠組み等に視点を置いて調査する。具体的にはフランス文学者やドイツ文学者の書物、西欧文学のアカデミズム関係の雑誌を調査・研究し、1920～40年代の文学者がどのような世界文学を読むべきものとして認識・共有し、そうした中でどのような考え方や読解のコードが分有されていたのか、「書物の空間」とも呼ぶべき読者共同体の実態を明らかにする。

3. 研究の方法

世界文学概念の形成過程の調査

中村真一郎の王朝関係評論、世界文学関係評論、『恋の泉』、『雲のゆき来』を調査する。中村真一郎に焦点化するが、同時代の「世界文学」関連の言説を広く収集し、日本における世界文学概念の形成について明らかにする。既に笹沼俊暁『「国文学」の思想』（学術出版会、平成18）が、世界文学概念が国民文学概念と密接に関わりつつ進展してきたことを指摘しているが、笹沼の研究は国文学研究に偏っている。広く文学者の言説に目を通して戦前から戦後にかけての世界文学概念について明らかにする。特に、山室静の『世界文学』の影響が重要である。山室は東北大学で日本文芸学、北欧文学等を学び、戦後には北欧のサーガの研究を行った。雑誌「近代文学」派と世界文学概念の関係についても調査する。後述するように外国文学研究者との共同研究を既に始めており、申請者を含め五人の研究者が発表を行った。

ブルースト関係旧蔵書の書き込み調査

ブルーストの『失われた時を求めて』の堀旧蔵本には、堀による欄外の線引きや書き込み、紙の挟み込みや試訳の書き入れなどが見られる。堀辰雄の旧蔵書の中でも膨大な量をしめるこれらの書き込みの実態を、まずは精査して整理する。とりわけ堀の注目した表現を明らかにした上で、堀の試訳と対照する。本研究成果については、雑誌『奏』に連続的に掲載する。研究成果についてはこれまで紙媒体の『奏』を中心に発表する。

堀口大学と堀辰雄がともに翻訳しているコクトーの作品の翻訳を比較する。堀口大学訳『コクトー詩抄』と堀訳『コクトー抄』を比較、特に両者がともに訳している作品を分析する。また、堀口大学と堀辰雄が翻訳について述べているエッセイを調査し、両者の翻訳観をまとめ、差異を浮き彫りにする。この点に関しては、西川正也「翻訳者・堀口大学の功罪」（『比較文学研究』平成2年10月）や西村靖敬「堀辰雄の翻訳と創作」（『千葉大学人文研究 人文学部紀要』平成16年3月）が翻訳の特徴を論じている。本研究では、堀口大学や堀の翻訳の特徴ではなく、翻訳の特徴の違いが堀の創作にどのようにつながっていくのか、両者の有機的な連関を明らかにする。

堀辰雄に関わる書物の調査と同時代の読書共同体・書物の範列的ネットワークの分析

堀辰雄にかかわる書物を分析し、当時の青年文学者との関わりや、当時共有されていた世界文学の必読書リスト、読書をめぐる共通認識を明らかにする。また、『カスタニエン』等の外国文学研究雑誌を調査、堀の翻訳についての批評を考察分析する。

4. 研究成果

まず、堀辰雄関連では、「堀辰雄「聖家族」論」（2016）において、これまでの成果に基づいて堀辰雄の翻訳行為と文体生成の関連を明らかにした。この方向において、横光利一の翻訳との関わりと堀のそれを比較した、「影響と翻訳の間」（2021）や、学会発表として「小林秀雄の翻訳」がある。なお、近日中に、「菜穂子」に関する論文を発表する予定もある。

堀辰雄にかかわる書物について分析をおこなった成果は、『奏』において、「堀辰雄をめぐる本たち 「むらさき」における「物語の女性」」「堀辰雄をめぐる本たち 菱山修三訳・ポール・ヴァレリイ『海辺の墓』」「堀辰雄をめぐる本たち 「カスタニエン」の翻訳論」を発表した。

世界文学概念の形成関係では、『文章読本』から『四季』へ、中村真一郎における文体の概念」や「中村真一郎における王朝の発見 「世界文学」概念の受容と影響」、『パネル発表「『1946文学的考察』における「世界文学」のプログラム』、編著『世界文学アンソロジー いまからはじめる』などにおいて明らかにした。

書き込み調査関連では、「堀辰雄旧蔵洋書の調査（九）～（十五）」で発表した。コロナ禍以降、調査が停滞している。近日中に、これまでの成果をまとめて、堀辰雄の旧蔵書の書き込みのあり方について、論文を発表する用意を行っている。

さらに、世界文学概念の形成過程を考察する過程で、日本モダニズムを女性作家の表現から捉えるという構想が発展し、「女たちのモダニティ」として、七本の論考を発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 19
2. 論文標題 影響と翻訳の間 横光利一と堀辰雄の文学言語の転回	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 横光利一研究	6. 最初と最後の頁 2-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 41
2. 論文標題 女たちのモダニティ 永瀬清子「グレンデルの母親は」 復讐の形象	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 65-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 40
2. 論文標題 女たちのモダニティ 中里恒子「乗合馬車」 国際結婚と混血	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 121-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 14
2. 論文標題 『文章読本』から『四季』へ 中村真一郎における文体の概念	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中村真一郎手帖	6. 最初と最後の頁 2-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 38
2. 論文標題 女たちのモダニティ 左川ちか「死の髻」「言葉」 世界を二重化する言葉	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 68-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 38
2. 論文標題 堀辰雄旧蔵洋書の調査(十五) ブルースト	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 110-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 39
2. 論文標題 女たちのモダニティ 田村俊子「離魂」 遍在する感覚	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 68-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 36
2. 論文標題 堀辰雄旧蔵洋書の調査(十三) ブルースト	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 90-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 37
2. 論文標題 堀辰雄旧蔵洋書の調査(十四) プルースト	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 111-130
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 34
2. 論文標題 堀辰雄旧蔵洋書の調査(十一) プルースト	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 132-150
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 35
2. 論文標題 堀辰雄旧蔵洋書の調査(十二) プルースト (5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 138-166
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 35
2. 論文標題 堀辰雄をめぐる本たち 「むらさき」における「物語の女性」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 64-72
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 32
2. 論文標題 堀辰雄をめぐる本たち 菱山修三訳・ポール・ヴァレリイ『海辺の墓』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 58-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 32
2. 論文標題 堀辰雄旧蔵洋書の調査(九) プルースト	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 95-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 17-5
2. 論文標題 中村真一郎における王朝の発見 「世界文学」概念の受容と影響	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文学	6. 最初と最後の頁 46-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 93-10
2. 論文標題 堀辰雄「聖家族」におけるラディゲ翻訳 文体と心理の相即	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 33
2. 論文標題 堀辰雄旧蔵洋書の調査(十) プルースト	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 82-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸塚学	4. 巻 33
2. 論文標題 堀辰雄をめぐる本たち 「カスタニエン」の翻訳論	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 奏	6. 最初と最後の頁 53-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 戸塚学
2. 発表標題 小林秀雄の翻訳 ランボー『地獄の季節』という「事件」
3. 学会等名 第15回英詩研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 戸塚学
2. 発表標題 影響と翻訳の間 横光利一と堀辰雄の文学言語の転回(特集「翻訳の季節 横光利一と同時代文学」)
3. 学会等名 横光利一文学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 戸塚学
2. 発表標題 中村真一郎と福永武彦の文体 『文章読本』を視点に(シンポジウム: 生誕100年 中村真一郎と福永武彦)
3. 学会等名 中村真一郎の会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸塚学
2. 発表標題 パネル発表「『1946文学的考察』における「世界文学」のプログラム」、
3. 学会等名 日本近代文学会春季大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 秋草俊一郎・戸塚学・奥彩子・福田美雪・山辺弦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三省堂	5. 総ページ数 361
3. 書名 世界文学アンソロジー いまからはじめる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------